

2013年(平成25年)1月26日(土曜日)

入林など道が許可

留萌振興局と増毛山道の会 今後のあり方



【留萌】留萌振興局とNPO法人増毛山道の会(伊達東会長)は6日、留萌合同庁舎で増毛山道あり方検討会の第3回会合を開き、今後の基本的な方向性をまとめた。歴史的価値と安全面から入林や使用の許可は道が行い、ショートコースを設定して多様な需要に応えることなどを盛り込んだ。

最終会合となった今回は、事務局が「増毛山道の今後のあり方について」と題した基本的な方向性を説明。全般として、山道の歴史などを丁寧に解説するためガイドが必要であり、安全面や盗掘などに対応するため、一般開放はせず、入林や使用の許可は道が行い、山道の会が中核となって連絡調整や情報交換の場を設けることとした。

観光面の位置付けなど今後の在り方をまとめた会合

維持管理では、山道の会が主体となって可能な範囲内でササ刈りなど維持、修繕を実施する。事業については、多様な需要に応えるためショートコースを設定し、収入源確保と対外的評価を上げる継続的手法として観光を位置付け、民間事業者や宿泊施設などとも連携する。

佐藤太紀留萌観光連盟事務局長は「情報を発信し続けることが何より重要であり、PRについてぜひ協力したい」と述べ、北大院農学研究院の愛甲哲也准教授は「歩くだけでなく食べる、学ぶ、見る、を組み合わせられる増毛山道は魅力的だ。ほかの山道やフットパスなどの団体と連携して維持や支援の仕組みを考えてはどうか」と提案した。

山保温史留萌森林室管理課長は、ショートコースやエスケープルートに不可欠の循環林道を、周辺地区で実施する造林事業と関連して2013年度に作業路として通行に支障がないよう整備する見通しを明らかにした。

増毛山道の会は、今回まとめた基本的方向を踏まえ、4月下旬に開く定時総会で事業内容を決定する。